

令和6年度 第1回蒲郡市都市計画審議会

1 日時

令和6年7月31日（水）午前10時から

2 場所

蒲郡市役所 新館6階 第2委員会室

3 出席委員数

11名

4 審議会の結果

議題1 国立大学法人豊橋技術科学大学 教授 浅野純一郎委員が選出されました。

5 議事案件

番号	議 題
1	蒲郡市都市計画審議会会長の選出について

6 質疑概要

○報告事項

（1）蒲郡市立地適正化計画 改訂版の公表について

問1 防災指針に関連した数値目標について。目標3から目標6が新たに設定されたが、目標3から目標5は目標値が100%になっている中、目標6だけが25%に設定されている。なぜこの数値なのか。

答1 目標6は、市民意識調査の「災害に強いまちづくり」の項目で「満足」もしくは「やや満足」と回答した方の割合を目標値としている。現況が6人に1人なので、目標年度には4人に1人となるよう防災・減災の取組を進めていきたいとの考えで設定している。

問2 計画改訂の検討時から、防災拠点施設の設置を意見している。防災系の計画で避難所が設定されているが、災害が激甚化する中で、現状で想定している避難所に避難するだけでは済まない災害が起こる可能性がある。私の考える防災拠点施設とは、そんな状態になったときに、そこに身を寄せれば医療・食料があり1週間程度は生き延びられる安全な施設・拠点のこと。市内をいくつかの地域に分けて、例えば、形原

西浦地区は新しい西浦の学校、塩津鹿島地区はボートレース場といった具合に、その地域毎に拠点施設的なものを設定するのがよいのではないか。そういった防災計画の考え方を今後検討することはできないだろうか。

答 2 立地適正化計画の防災指針は、便利で快適に生活できるまちを持続させるために居住・都市機能を誘導するにあたって、水災害を主眼において、その地域を安全にするための方針や施策を位置付けたもの。ご意見いただいた内容は重要だと思うが、検討するのであれば、地域強化計画をはじめとした防災系の計画で行うものだと考えている。ご意見いただいたことを庁内で共有する。

問 3 防災指針に関連した目標の目標 4 について。地区防災計画の作成が各地域で進んでいると聞いているが、現状はどうか。

答 3 現況値は、全 48 総代区のうち拾石町総代区のみが作成済みということで 2.1%と記載している。現在、大塚地区の 3 総代区で作成済みで、形原地区の 9 総代区で作成中と聞いている。

問 4 地区防災計画を地元地域だけで作成することは難しい。行政側の協力が重要だと思うがどう考えているか。

答 4 担当課からは、まち部の地区で作成に向けた意識醸成がしにくい、という意見は聞いている。意識醸成に協力していきたい。

意見 今回の改訂で追加した目標 6 だが、当面は 25%を目指すことでよいと思うが本来であればもう少し高い目標のほうがよいのでは。また、市民意識調査における満足・やや満足の人割合を目標値として採用しているが、やや不満・不満の人を減らすことを目標にしてもよいかも。

問 5 目標 6 だが、目標値をクリアするには満足度を上げる方策がないと難しい。防災指針を含めた立地適正化計画があるということを市民に知ってもらわないと満足度は上がらない。どのようにアピールしていくかが大事だと思うが、どうか。防災に関する情報にアクセスしたときに、まちづくりに関しても災害につよいまちづくりを目指していることを市民に理解してもらう機会があるとよい。

答5 現在、地区防災計画を策定している。そういう機会に関わってもら
う地域住民に、立地適正化計画や防災指針を知ってもらい、災害リス
クの高い地域で実践できる対策を理解してもらうことで意識醸成が果
たせるのではないかと考えている。それ以外の周知の方法も考えたい。

問6 目標6の目標値は、調査項目を5段階で評価・回答してもらった結果、
上から2つの選択肢である「満足」もしくは「やや満足」と回答した
人の割合だとの説明だったが、この数値をどう評価・分析しているか
が気になる。例えば、中間の「どちらでもない」が大多数なのか、下
から2つの選択肢である「やや不満」と「不満」が多いのか、その割
合によっても評価が変わる。下2つの割合が6～7割だとかなり問題
だが、中間の割合が5割ぐらいだとすると、「特段目立った施策もない
が、あまり大変なことも起こってないからまあいいか」みたいな意識
だと思う。よほど目立つ事業をやらないと満足度は上がらないと思う
ので、数値を上げようとするとう本当に大変だと思う。

答6 中間の「どちらでもない」の割合が多かったと記憶している。ただ
し、この項目は、調査時点の直近で災害があると市民の意識が大きく
変わり、評価が変動すると考えている。ここ20年くらいは、蒲郡市
では「本当にどうにかなってしまうような水災害」を経験したことが
ないため、市民は蒲郡市が比較的安全なところだと思っているのかも。
しかし、全国的に災害が頻発すると、安全性に疑問を持つこともある。
ハザードエリアの正確な情報をお知らせし、そのハザードに対するハ
ード対策の実施状況や避難経路等のソフト対策を理解してもらって、
正しく危険を認識してもらうことが大事だと考えている。

問7 今回、目標6の目標値を25%と設定しているが、民間企業ではあ
りえない目標設定だと思う。どうしたら満足度が100%になるのか
が非常に大事。どのような施策をしたら100%になると考えるか。

答7 大変難しい問題だと認識している。また、満足度100%というの
は統計的に不可能では。目標6は、2年ごとに実施している市民意識
調査の結果を見ることにしている。これまでの調査でも満足度25%
には至っていない。絵空事での目標値ではなく、何とか目指せる目標
値を考えて設定している。

問8 目標6の目標値を25%でよしとするところに疑問がある。満足度を上げる努力をするということはわかるが、及第点を取ることをマストにして、そのために何をやらなければいけないのか、という方法論に分析手法を切り込んだほうが良いのでは。何のためにこの目標値を設定しているのかということ。市民が満足するためにすべきことをあぶりだすための目標値設定だと思っている。その場合には、どうしたら満足度が100%になるのかを具体的に検討しなければならないのでは。

答8 今回追加した防災指針の具体的な取組と進め方の部分で施策を掲げている。ただし、この施策を実施すれば満足度が上がるかまでは分析できていないのが現状。立地適正化計画は、計画の目標年次は2040年度。目標3から6の目標値は、防災指針の目標ということで2030年時点の値を設定している。立地適正化計画では途中の目標値という位置づけ。目標4は、目標3から5の取り組みも含めた施策を行ない市民に安心を感じてもらうことで、2030年には25%の市民に満足してもらえるようにしたいということ。その後については、次の立地適正化計画の評価時点で、今回いただいた意見も踏まえてどのように評価するのか、目標を設定するのかを考えたい。

地区防災計画を策定する中で、今回の防災指針のことを地元地域に周知したうえで、地区防災計画を検討してもらうことが啓発という意味で大事だととらえている。

問9 商工会議所の会員からは、企業用地創出の要望が非常に強くある。今回、策定から5年が経過したということで立地適正化計画の改訂があったが、次の改訂が5年後に行われるとすると、その際には国道23号蒲郡バイパスの開通という大きな環境の変化が生じていると思われる。企業用地の創出という視点での検討はいかがか。そういう検討は立地適正化計画に馴染むものなのか。

答9 立地適正化計画は、人口減少が進む中でも一定区域で人口密度を維持し、効率的な行政サービスを提供することを目指している。市内での企業用地創出と、そこから派生する人口増加という視点からは、立地適正化計画を検証していない。参考意見として受け取める。

会長意見 立地適正化計画は都市計画マスタープランの一部。工業用地の

配置といった土地利用の視点は、都市計画マスタープランで検討・位置づけする部分。なお、行政側の用地創出事業が具体化する際には、必要性の裏付け等も検証したうえで都市計画マスタープランを改訂し、具体策として市街化調整区域の地区計画の設定を行って、造成・用地確保となることが多い。蒲郡市では平地を確保することが地形的に難しく話が進みにくいことが最大の難点だと思う。

以上